

令和5年度

研 究 紀 要

第55号

徳 島 県 高 等 学 校 音 楽 学 会

音 楽 部 会

目 次

I	令和5年度 徳島県高等学校教育研究大会音楽学会	1
II	令和5年度 徳島県高等学校音楽教育研究会及び研究協議会	5
III	第32回全日本高等学校声楽コンクール徳島県予選	13
IV	令和5年度 徳島県学校音楽祭(器楽合奏の部)	15
V	令和5年度 徳島県学校音楽祭(合唱の部)	18
VI	令和5年(2023年)度 人権に関する児童生徒の作品	22
VII	実践報告	
1	フレッシュ研修Ⅰを終えて	24
2	フレッシュ研修Ⅱを終えて	35
3	ジャンプアップ研修を終えて	39
4	ミドルリーダー研修を終えて	40
VIII	会員寄稿	45
IX	会員名簿	47
IX	会員名簿	

I 令和5年度 徳島県高等学校教育研究大会音楽学会

1 研修内容 (1) 講演

「学校説明及び進路指導について」

講師 大阪音楽大学入試センター 崎山 和英 先生

(2) 施設見学及び演奏鑑賞

(声楽) 教授 田中 由也 先生

(ユーフォニアム) 教授 木村 寛仁 先生

(ピアノ) 教授 藤井 快哉 先生

2 期 日 令和5年8月21日(月)

3 会 場 関西方面及び大阪音楽大学

- ## 4 日 程
- 7:30 名西高等学校出発
 - 8:10 徳島とくとくターミナル(松茂)出発
 - 10:20 大阪梅田到着
 - 10:20～12:20 自主研修
 - 12:20 大阪梅田出発
 - 12:50 大阪音楽大学到着
 - 13:00～14:00 講演「学校説明及び進路指導について」
 - 14:00～16:00 施設見学及び演奏鑑賞
 - 16:00 大阪音楽大学出発
 - 18:20 徳島とくとくターミナル(松茂)到着
 - 19:00 名西高等学校到着

5 記 録 者 池田支援学校 小谷 直也

I ミニコンサート及び各専攻の説明

- | | |
|--|---|
| 1. 歌劇《シャモニのリンダ》より〈この心の光〉 | G. ドニゼッティ
大学4年声楽専攻 石川 真子
伴奏 大学4年ピアノ専攻 長谷川 稜 |
| 2. 《英雄ポロネーズ》 F. ショパン | ピアノ専攻・コース 藤井 快哉 教授 |
| 3. 《ロンドンデリーエア》 イギリス民謡 | 管弦打楽器専攻・コース 木村 寛仁 教授 |
| 4. ミュージカル《レ・ミゼラブル》より〈彼を帰して〉 C. シェーンベルク | 声楽専攻・コース 田中 由也 教授 |

5. 在校生より挨拶，入試センター主事より各専攻の説明

大学到着後，まず学内の「ミレニアムホール」（舞台：106㎡，客席：302席）に移動。このホールは，大学の行事や授業だけでなく学生主催の演奏会等も頻繁に開催されており，在学生にとっては演奏の研鑽だけでなく，イベント等の企画運営を実践する場にもなっている。舞台機構（音響や照明）を使って，学生が操作方法を学ぶことも可能。ミニコンサートでは，教授の先生方に加えて本県出身の学部4年生（声楽専攻：徳島市立高等学校出身）の学生の演奏を鑑賞。演奏後に大学での学びについて聞かれると「オペラや演出など様々な授業を受講することができ，一人では学べないことを学べて良かった」と語り，幅広く充実した学生生活を過ごしている様子であった。

コンサート後は各専攻の内容について説明を受けた。大阪音大の特徴として，どの専攻でも個人レッスンに加えて様々な編成のアンサンブル（室内楽，オーケストラ，オペラ等）について幅広く学べるカリキュラムを用意しており，卒業後すぐ演奏家として活動できる即戦力を身につけることができる。また，過去に全盲の視覚障がい者の学生が在籍していたこともあり，点字楽譜や校内施設の環境整備等もされている。



Ⅱ 学校施設内見学

○100周年記念館（3階～6階のみ見学）

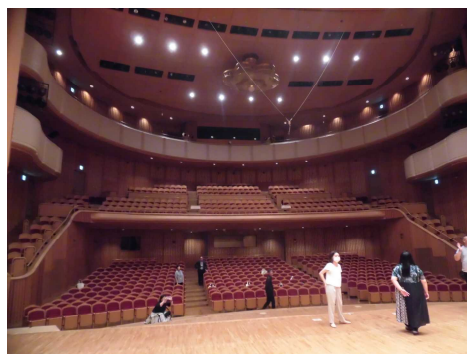
2015年に創立100周年を記念して建設された校舎。各階に休憩スペースがいくつも設けられているほか、練習室前の廊下も十分な広さが確保されており、フロア内は明るい雰囲気。屋外テラスや学生サロンのスペースもあり、学生のミニライブ等にも活用されている。まず3階で楽器資料館を見学。約1000点の所蔵楽器等を「日本の伝統楽器と西洋の楽器」「世界各地域の楽器」に分けて常設展示。古楽器の特徴や表現方法を学ぶために、授業でも資料館と所蔵楽器が使用されている。4階はジャズ・電子オルガン・作曲デザインのフロア。練習室には最新のDTM設備や電子オルガンが配備されているほか、グランドピアノなど合計30台以上の楽器が備えられている。演習室はビックバンドの練習が可能な程度の広さがある。5階はポピュラー音楽と憩いのフロア。バンドや個人のためのレッスン室があり、演習室は吸音を意識した内装になっている。学生サロンにはグランドピアノや5台のPCスペースもあり。6階はオペラ・ミュージカルのフロア。オペラ演習室とミュージカル演習室があり、いずれも控え室を備えており試演会も開催可能。



○オペラハウス

100年記念館から徒歩5分程度の距離にある。大学施設としての劇場であり、本格的なオペラを上演できるホールとして建設された。最大756の客席を備えており、ステージ下には60人程度が収容可能なオーケストラピットがある。舞台正面と側面の反響板を取り外すと、電子音楽やポピュラー音楽の演奏会も行える。2階席横の反響板を開閉させることで、ホール内の残響をコントロールすることも可能。舞台後方には2段のセリがついていて、上方に2m、下方に7mほど移動可能。

見学の中で、実際に舞台のセリから奈落までの移動を体験させて頂いたほか、舞台裏で照明や舞台機構操作盤などの操作方法の説明を受けた。



Ⅲ 学校概要及び進路指導についての説明会

○大学の概要

大阪音楽大学は、関西で唯一の短期大学部を持つ音楽大学である。第1，第2キャンパス及びカレッジオペラハウスの3つで構成されており，都心からのアクセスも便利(大阪・梅田駅から約10分)。徳島県からは，毎年平均して約1名程度が入学。時代のニーズに合わせながら，演奏家の養成だけでなく，音楽に関わる幅広い職業に携わることのできる人材育成を目指している。

○各専攻・コースについて（抜粋）

- ・演奏家特別コース・・・週90分の特別授業がある。教員と相談して自由に授業内容を設定することができ，学内でリサイタルも可能。

- ・ポピュラーエンターテイメント専攻・・・今年度より，新たにシンガーソングライティング・コースを立ち上げ。作詞，作曲，編曲，ステージパフォーマンス等全て網羅してシンガーソングライターを育成する。

- ・地域創生ミュージックマネジメント専攻・・・音楽で地域創生を担う人材の育成を目指し，地域の音楽文化の研究，アートによる地域創生の実践，アートマネジメント技術の修得等を目指す。大阪周辺の地域のホールや施設，市とも連携して，地域創生について実践的に学習できる。

- ・音響照明コース・・・来年度より開設。総合プランニングできる音響照明スタッフの育成を目指し，ライブハウスでの実務やコンサートの企画運営などの演習も予定。

○進路について

- ・大学で取得可能な資格・・・小学校教諭一種免許状，中・高教諭一種免許状（音楽），知的財産管理技能士，舞台機構調整技能士など

- ・音楽関連企業に加え，一般企業にも多数就職。教員とのレッスンのなかで，社会人として必要な関係構築能力が身につくほか，音楽について学びを深めることによって培われた感性も，将来役立ててほしい。

○大学入学者選抜について

- ・入学者選抜の種類は総合型選抜，学校推薦型選抜（以上専願のみ），一般選抜，後期総合型選抜の4つ。後期総合型選抜以外の入試では，演奏家特別コースを受験することができる。

- ・従来からの演奏家養成のための専攻だけでなく，「演奏はしないけれど，将来音楽の業界に携わりたい」と考える人材の育成を目指した専攻（ミュージックビジネス専攻，音響照明専攻）を開設している。これらの専攻では入学者選抜においても楽器演奏等の課題は不要であり，代わりに企画やプレゼンテーションが実技試験として課される。

Ⅱ 令和5年度 徳島県高等学校音楽教育研究会及び研究協議会

- 1 期 日 令和5年9月20日（水）
- 2 会 場 徳島県立小松島西高等学校
- 3 研 究 授 業 授業者 小松島西高等学校 教諭 松丸 麻祐子
- 題 材 「ウクレレでアンサンブルをしよう！」
- 司会者 脇町高等学校 教諭 北川 昌代
- 指導助言 徳島県立総合教育センター 上原 祥子 指導主事
- 記録者 国府支援学校 教諭 黒木 小百合
- 4 伝 達 講 習 徳島県立総合教育センター 上原 祥子 指導主事
「新学習指導要領のポイント」
- 5 日 程
- | | |
|-------------|---------|
| 13:00～13:20 | 受付 |
| 13:20～13:30 | 開会行事 |
| 13:40～14:30 | 研究授業 |
| 14:30～14:50 | 休憩 |
| 14:50～15:50 | 協議・指導助言 |
| 15:50～16:30 | 伝達講習 |



1 研究授業

第1学年音楽科学習指導案

徳島県立小松島西高等学校

1 5 ・ 1 6 HR 2 3 名(音楽選択クラス)

指導者 松丸 麻祐子

1 題材 ウクレレでアンサンブルをしよう！

2 題材の目標

- (1) 曲想とウクレレの音色や奏法との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付ける。
- (2) 構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように奏するかについて表現意図をもつ。
- (3) 曲想とウクレレの音色や奏法、アンサンブルに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、仲間と演奏をつくり上げる喜びを味わい、音楽を愛好する心情を養う。

3 教材

MOUSA 1「ウクレレ」など

4 題材について

(1) 児童生徒の実態

対象生徒は1 5 ・ 1 6 HR の2 3 名の生徒である。1 学期に基礎的な楽譜の読み方を学習した上で、クラスで協力してトーンチャイムの演奏を行った。楽典の知識に自信の無い生徒も見られたが、工夫をして楽譜を読む楽しさを知り、前向きに練習に取り組む姿が印象的だった。発言力の差はあるが、意見を求めると一人一人しっかりと自分の思いや考えを伝えることのできる生徒が多いため、アンサンブルのグループ作りや生徒の意図や考えをくみ取る方法についての工夫が必要であると考ええる。

(2) 教材について

今までウクレレを授業で扱う際、個人での実技テストで評価を行ってきたが、今回は初めてアンサンブルの形式での発表を目標に置く。授業で取り扱ってきた曲やコードなどを再分析し、生徒が興味をもって取り組むことができる選曲や曲のレベルに配慮して、『マリーゴールド』『打上花火』『カントリーロード』を編曲した。基本的にウクレレで弾きやすいコードは「C・G 7・F・Am」だが、メロディの弾きやすさにも配慮し、できるだけ基礎の練習で学習した4つのコードも使用できるように調性を工夫した。3 曲それぞれに違ったイメージが想像できる曲を選び、生徒の表現の工夫に幅をつくりたい。授業で使用する楽譜は、授業の進め

方や組み立てにも大きく影響するため、指導する際にどんな手立てを行うことができるかについて考慮しながら、教材の準備を行いたい。

(3)指導にあたって

今までに授業でウクレレを扱ってきた際、「コード弾き」と「メロディ弾き」のどちらの奏法も扱い、得意な弾き方を生徒が選択できる実技テストを実施していた。生徒の希望はいつも二分しており、ギターやウクレレなど弦楽器だからこそ生まれる選択肢の必要性を感じてきた。今回のアンサンブル演奏では、2重奏の演奏形式で「コード弾き」と「メロディ弾き」が選べる形での編曲を行いたい。

また、1学期のトーンチャイム演奏の際、授業の中間地点で曲の完成に向けてのグループ活動を行った。お互いに意見を伝え合うことで練習中にも話し合う場面が生まれ、演奏のクオリティが上がった。「アンサンブル演奏を行う為には何が必要か」というワークシートでの問いに、「意見交換の重要性」を挙げる生徒も多くいたため、1学期での学びをウクレレアンサンブルに生かすことができるように指導したい。

5 学習指導要領との関連

A 表現

表現に関する資質・能力を次のとおり育成する。

(2)器楽

器楽に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(イ) 曲想と楽器の音色や奏法との関わり

ウ 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、次の(ア)から(ウ)までの技能を身に付けること。

(ア) 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能

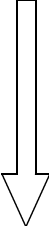
(イ) 他者との調和を意識して演奏する技能

〔共通事項〕(1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「構成」)

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想とウクレレの音色や奏法との関わりについて理解している。 技① 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふ	思 構成を知覚し、その働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	態 曲想とウクレレの音色や奏法、アンサンブル演奏に関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。

6	表する。		◆ワークシート	
7	●グループで練習する。 - コード弾きとメロディ弾きそれぞれに得意なパートを話し合い、パート決めを行う。 - 一度通して演奏できるようになったら、生徒のタブレットで録画して、自分たちの演奏を聴き、振り返りを行う。	知 ◆ワークシート		
8	◎演奏発表を行い、互いの演奏を聴き合う。			
9	●演奏を発表し、自分自身が頑張ったところや工夫した点を振り返る。 - ワークシートに自分の言葉で記入する。 ●互いの演奏を鑑賞し、特に良かったと感じた演奏に一人一票投票する。 - 良かった点について、Forms で投票を行う。 - 意見を共有する。	技② ◆演奏発表 ◆ワークシート		態 ◆レポート ◆観察

8 本時の学習

(1) 目 標 音楽の構成に着目し、曲のもつ雰囲気やよさを表現するためにどのような工夫ができるか考える。

(2) 展 開

学 習 活 動	○指導上の留意点	◇評価規準	◆評価方法	要 素
1 基本的な「コード弾き」「メロディ弾き」の奏法の確認をする。	○練習曲を練習しながら、各コードの音の確認や、楽器の構え方などを一斉に指導し、近くにいる生徒同士で互いに確認し合うように促す。			
曲のもつ雰囲気やよさを伝えるために、どんな工夫ができるか考えよう！				
2 曲の構成ごとにどのような工夫ができるか考える。	○それぞれ候補曲を A , B , C の3つの構成に分け、どのような表現の工夫をして演奏するか、まずは個人で考えさせる。 ○ワークシートに記入させ、個人の考えや思いを後で評価できるようにする。 ○曲の流れを確認できるように、MetaMoji にデモ演奏を準備してお			

3 グループで練習を兼ねて意見を出し合い、どのような工夫をするか話し合う。	く。 ○話し合いの際にも楽器で音出しをしながら、弾き方の工夫等でどのような表現効果があるかを確認し合うように促す。 ○それぞれの工夫が、音楽のどのような要素に基づくものかを、生徒と確認しながら進める。 ○実際に工夫したいことがうまく表現に繋げることができるか、各グループの練習の様子を見て、必要に応じて助言する。		
4 グループで話し合った内容を発表し合う。	○ MetaMoji にグループごとに入力し、シートを前の画面に表示して全体で発表させる。 ○他のグループの工夫発表を聴き、自分のグループの演奏発表の完成に生かすことのできる意見があれば今後の練習で取り入れるように促す。	◇構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように奏するかについて表現意図をもっている。【思】 ◆グループ活動 ◆ワークシート	構成

(3) 評価及び指導 (手立て)

【思・判・表】

A (十分満足できる) と判断される具体的な状況	・それぞれの構成の中で、授業で学んだ奏法等を生かし、音色や強弱、速度などの音楽を形づくっている要素を2つ以上関わらせた目標を立て、曲のイメージや雰囲気表現しようとしている。(例: □の部分には曲のサビの部分なので盛り上げたい。メロディ弾きは今までよりも強く、はっきりとした音色で弾く。コード弾きはストロークにリズムのアレンジを加え、元気よく弾く。(強弱・リズム・音色))
B (おおむね満足できる) 状況を実現するための具体的な指導 (手立て)	・練習曲の中で取り上げた演奏の工夫(ストロークを増やす、指の腹側と爪側で弾いたときの音色の違いを再確認する、軽くゆっくりと鳴らすことで柔らかい音が出る など)と一緒に確認し、選曲した曲の中で活用するように促す。



2 研究協議

○授業者より

生徒たちは 50 分間集中してよく取り組めたと思う。自分自身器楽の授業が好きで、授業でも沢山取り入れている。ウクレレは今までは個人のテストのためにしてきたが、今回はグループで発表する教材として取り入れた。授業内容は、音楽を形づくっている要素の「構成」を拠り所にして授業を立て、そこから「リズム」「強弱」「速度」などの音楽の要素に派生する形で授業を展開した。反省点は、午前中に同じ授業を 2 回やってみたが進め方が難しく、指導案上では A, B, C 全部考えさせる予定だったが、1 部分に絞って考えさせることにした。時間と生徒の実態が合っていなかったと思う。進め方や改善点があれば教えてほしい。

○参観者より

＜ひのみね支援学校 豊田尚子教諭＞

先生が楽しく授業されていて素敵だった。自校の生徒はウクレレのコードをどんどん押さえて演奏できるというのではないが、簡単にチューニングを変えられ音を鳴らすだけでも癒されるので好きな生徒が多い。また三味線やギターよりも小さいので使い勝手が良く、ギターで挫折した子も仕切り直してチャレンジできるのではないかなと思うので、良い楽器を選択されていると思う。進め方について反省されていたが、一日に同じ授業を三回もされていて、上手いかなと感じた部分を午後に修正できる対応の速さが伸びしろが十分あるし、先生自身のお力があると感じた。研究授業となると欲張りすぎてしまうところがあり、今回の音楽の要素も音楽をやっている人間にとっては全部大事と思ってしまうが、音楽を専門的にやっていない生徒にはかなりの的を絞ってやらないと伝えたいことが伝わらない。また、生徒のやった感(達成感)も大切なので、的を絞り単元トータル 9 時間で各 1 時間ごとにねらいを決めて積み重ねるようにすると、全部終わった時に先生の伝えたいことも伝わるし、生徒もやった感を感じられるような授業になるのではないかなと思う。音楽を語ることは、音楽を好きな人であれば誰でもできるので、授業の中でいかに的を絞って伝えられるかが、我々音楽教員としての力量が問われるのではないかなと思う。気になったこととしては最初の練習曲を沢山演奏した時が生徒たちにとっては一番楽しさがピークで、その後グループで話し合いになった時にテンションが下がっている感じがしたので、また最後にテンションを上げる工夫が必要だったかもしれない。また 3 曲から 1 曲決めるところで一回区切って曲名発表をしたほうがメリハリがついて良かったのではないかなと思う。

＜城ノ内中等教育学校 坂東遙教諭＞

生徒みんながウクレレに親しんでいる姿が見られ、生徒たちが練習中常に手を動かして楽しそうに一生懸命練習していたので見ていて気持ちよかった。また松丸先生が昨日の私(録画)と今日の私(授業中の生演奏)でアンサンブルをしたのが楽しくて、生徒も集中して音をよく聴いていた。生徒がタブレットを使いこなしていることに感動した。MetaMoji のどこにどういうデータが入っているのかを生徒自身が把握し、迷いなく操作できているのは、松丸先生が日頃の授業の中でコツコツ使っている成果だと思う。また、机間巡視の時に、生徒の質問に対して先生が実際に弾きながら説明してフィードバックしていたところがとても良かった。楽器や音楽を通して先生や生徒同士でやりとりしているのがとてもよかったので私も真似したいと思う。

＜海部高等学校 梅本香織教諭＞

松丸先生が元気はつらつで、生徒も先生もいい雰囲気楽しいそうに授業を受けていた。先生の言葉かけでとても印象的だったものがある。E 班が「目標は、失敗せずに止まらず演奏する」と発表した。自分自身の授業でも振り返りの場面で、「難しいから練習する」とか「楽しく演奏できた」と生徒が書いてくることがあり、「こちらが求めているのはそうではない」ということがよくある。松丸先生はその後、「失敗せずに止まらず演奏する」にはどうすれば良いかを音楽の要素と関連付けて引き出すように言葉かけをされていたのが印象的だった。また、それぞれの班で「どのような演奏にしたいか」や「曲を盛り上げるためにはどのように演奏すれば良いか」ということを生徒自身がよく考えていたので、それは松丸先生の日頃のご指導の賜物だと感じた。気になったところは、導入が長かったことと、表現を考える前に3曲を演奏しておくともっと活発な意見が実感を伴って出たのではないと思う。来週から三線の授業をするので参考にしたい。

○助言者より（上原祥子指導主事）

本日の授業では生徒が集中してとても熱心に取り組んでいた。それは松丸先生が器楽の授業だけではなく全体の音楽を通して、整理されたワークシートや音楽の要素や資料の掲示物等、日頃から継続した取り組みやきめ細やかな指導をされているからだと感じた。9時間のうち本時は4時間目で前3時間で曲が弾けるようになってという設定であった。今回の授業内容であればもう少し後に設定できれば良かったが、夏休み明けということもあり難しかった。

技術を習得してから思考判断力を身に付けるのではなく、応返ししながら同時に高めていくことが大切である。例えばウクレレの構えが不十分だった生徒がストロークを速く弾きたいとなれば基本的な構えの習得につながるように、松丸先生がうまく授業設定されていた。また指導案5番で「生徒の思考・判断の拠り所となる音楽を形づくっている要素」として「構成」を挙げている。音楽は色んな要素がすべて相互に関連し合いながらできているが、あくまでも指導案や授業では「思考・判断の拠り所となる部分だけを設定する」ということになる。今回であれば「音色」や「リズム」は「表現の工夫の対象」となる。そのため構成を拠り所として考えられているかが評価の対象となる。例えば「中間部分は穏やかなので音色とリズムに着目する」のように構成を拠り所として考えられている生徒は評価基準でいうと B となる。A の生徒の幅をどこにもってくるかだが、聴き取る窓口、拠り所と表現の工夫の対象のすみ分けをクリアにすると授業がしやすくなる。質も見えていかないとはいえないが、今回であれば松丸先生がよくおっしゃっていた「音色」や「リズム」を工夫できていた生徒は A にするというようになる。拠り所を何にするかを決めることは教員としての質が問われるので、教材研究が大切になってくる。学校の年間計画や生徒の実態、教材の質によって生徒に何を身に付けさせたかが異なるため同じ曲を扱ったとしてもその都度「拠り所」は変わってくる。また表現の工夫においてはイメージが大切になってくる。今回は時間がなかったが、3曲のイメージがあれば表現の工夫においても思考の深まりがあったのではないと思う。曲を仕上げることを目標ではないので、部分的に3小節でも表現の工夫ができればよいと考える。

今回の松丸先生の授業では ICT をたくさん活用されていた。提示の仕方もそうだが学習支援ソフトを使った音源を配布や MetaMoji を活用した協働学習がされていてとても良かった。今回のように歌唱やリコーダーでは他の声部を歌ったものを録音しておく個人練習の時に合わせて歌う練習ができるので使うことができるので活用してほしい。また提案として ICT を使って前回の授業の簡単なクイズをしたりできるのでそういうのも活用してほしい。

Ⅲ 第32回全日本高等学校声楽コンクール徳島県予選

1 徳島県予選結果・講評

日 時 令和5年8月10日(木)
 会 場 石井町中央公民館 藤ホール
 徳島県代表 毛利 心馨
 (徳島県立城ノ内中等教育学校5年)



出 場 者(申込順)

氏名(学校・学年)	課題曲	自由曲	ピアノ伴奏
毛利 心馨(城ノ内中等教育学校5年)	荒城の月 1・3番	La serenata (Tosti 作曲)	米田 佳子
原口 りさ(鳴門高等学校1年)	納涼	Ridente la caima (Mozart 作曲)	原口 絵里
鎌田 智江(富岡西高等学校3年)	納涼	Care selve (Hendel 作曲)	湯浅 彩
三田村 結菜(名西高等学校2年)	納涼	Intorno all'idol mio (Cesti 作曲)	秦 千波

講 評

徳島県立富岡西高等学校 教諭 常陸 貴生

皆さんが歌い始めた時にまず最初に聴くポイントは声量です。しかし、ただ大きい声を出せば良いのではなく、強弱を使い分けたり、出す音の幅がどれくらいあるのかを意識して聞いています。選曲によってこういった音の幅を主張できます。そのためによく言われることは、無理のない発声や自然な呼吸法が挙げられます。これらが基本となるわけですが、曲の展開によっては踏ん張らなければいけない、多少無理してでも歌い込まなければいけない部分など、自分にとって自然ではない場面に出くわすことが多々あります。つまり演奏をする上で無理のない自然なことが求められており、普段の生活の自然とは異なります。練習も含めて本番でもブレずにこれらが出来ることが大事なことですし、一番難しいことです。

今日のような本番では緊張や不安がつきまといいますが、それらを含めて積極的にできたでしょうか？思い通りに演奏をしたいときには守りに入りそうになる時がありますが、そうなると息の流れも含めて正しい発音や滑舌、表現力にも影響してきます。これからたくさんの曲に触れていく皆さんには、完成された演奏とはまた異なる、未熟だからこそできる積極的な演奏にも大きな価値がありますので、今まで取り組んできたことと今日の経験をこれからも存分に活かしてください。

2 全国大会参加寄稿

「第77回滝廉太郎記念全国高校生声楽コンクール」に参加して

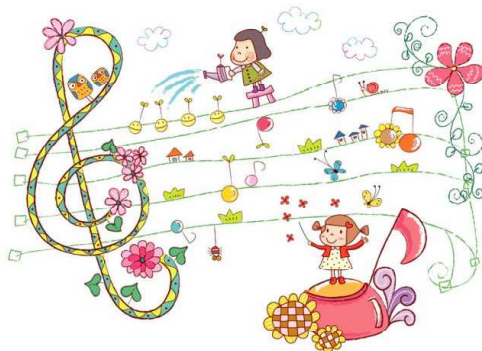
徳島県立城ノ内中等教育学校5年 毛利 心馨

私は10月13日～15日に大分県竹田市で開催された第77回滝廉太郎記念全国高校生声楽コンクールに出場しました。私はこの大会に参加することを目標のひとつとしており、2年連続で出場できてとても嬉しかったです。

きれいでよく音が響く最高のホールで歌うことができ、非常に良い経験となりました。大会期間中、ほかの出場者と交流ができる時間も多くあり、様々な地域の出場者とコミュニケーションをとることができ、多くの刺激を受けました。

また、コンクール当日には、自分の演奏の前後にほかの出場者の演奏を聴くことができました。みんなの高いレベルの演奏を聴くことができ、とても良い経験となりました。自分の演奏では練習の成果を出し切り、今までで一番良い演奏ができたと思います。残念ながら本選には残れませんが、この経験をもとに、さらなるレベルアップを目指して尽力していきます。

ご指導いただいた先生方、またお世話になった先生方、本当にありがとうございました。



Ⅳ 令和5年度 徳島県学校音楽祭(器楽合奏の部)

徳島県学校合奏コンクール

1 日	時	令和5年7月26日(水)
2 会	場	あわぎんホール 大ホール
3 審	査	員
		四国大学講師 石川 透
		徳島県立総合教育センター指導主事 上原 祥子
		フルート奏者 川人 伸二
		瀬戸フィルハーモニー交響楽団 仙波 克久
		徳島県邦楽協会会長 三木 千佳子 (五十音順)

4 プログラム

学校	指揮者	演奏形態	曲 名	作曲者・編曲者
城ノ内中等教育 学校		器楽合奏・ 小編成	「くるみ割り人形・ メドレー」より マーチ, ロシアの踊り, 花のワルツ	P.I.チャイコフスキー 編曲 黒川 圭一
阿波高等学校	松浦 有沙	器楽合奏・ 小編成	カプリオール組曲より 1, 5, 6	P.ウォーロック
徳島文理高等学校		器楽合奏・ 小編成	アイルランドの歌と踊り	T.オキャロラン 編曲 金子 健治
名西高等学校	上原 慎太郎	器楽合奏・ 小編成	アトムハーツクラブ カルテット 1, アレグロ 2, アンダンテ 3, スケルツォ 4, フィナーレ	吉松 隆
名西高等学校	上原 慎太郎	器楽合奏・ 小編成	ゆめのかけら	広瀬 勇人
城西高等学校	森長 友希	金管バンド ・吹奏楽	スコティッシュ・ ファンタジー 民俗的旋律による 11の変奏曲	阿部 勇一
板野高等学校	山本 裕子	金管バンド ・吹奏楽	ストラクチュアⅢ	天野 正道

県立川島中学校・ 高等学校	岸 直美	金管バンド ・吹奏楽	吹奏楽のための「風之舞」	福田 洋介
徳島市立高等学校	岸 秀典	器楽合奏・ 大編成	ファウストの舞踏音楽より 第3, 5, 7楽章	C.グノー
城東高等学校	井上 郁代	器楽合奏・ 大編成	バレエ音楽『眠れる森の 美女』組曲より	P.I.チャイコフスキー

講 評

フルート奏者 川 人 伸 二

【部活動の今後の展望】

近年、学校では深刻な問題が拡がりつつあります。

その問題とは、教員の志願者が減り、教員数が不足しているということです。

そのことは部活動を担当する教員がいなくなり、「外部講師に委託」するか、「地域活動に移管」するか、果ては「部活動の廃止」ということに繋がっていきます。何故そんな状況が生じてきたのでしょうか？

私には「ボランティア」という言葉の間違った捉え方に根源があるように思えます。

学校に限らず、日本社会は「ボランティア」という「美辞麗句」に無報酬労働を強要してはいないでしょうか？日本では「ボランティア」と言えば、「無償で働くこと」といった間違った常識が独り歩きしてしまっています。”断れない”「上からの圧力」や,”聖職者たれ！”という「道義的圧力」で無報酬の長時間労働を余儀なくされてはいないでしょうか？

その結果、先生は「忙しい」「自由がない」「無報酬労働が多い」というマイナスイメージが先行し、教員志願者が激減しているのが今の現状でしょう。先生は「無償で働くボランティア」ではなく「プロフェッショナル」ですので、「勤務時間」、仕事に対する「報酬」はきちんと守られるべきです。「ボランティア」の本来の意味は、「仕事を離れた、自発的な意思に基づく行動」である筈です。間違った「無償で働くボランティア」に順応してきた学校では、生徒たちにも同じように誤った「ボランティア像」を強要しているかもしれません。

生徒の自発性や純粋な向上心は育まれているのでしょうか？

昨今、部活動は学校の都合で少数厳選され、種類も数も少なく、簡素化されています。それで生徒の本当にやりたい気持ちに対応出来るのでしょうか？ましてや「複数の部活動を体験する」などという発想は夢にも浮かびません。

入部した部活動ではコンクールに迫われ、勝った負けたの世界に没入し、泣き笑いし、それが部活動の本質、音楽の本質だと思い込んでしまいます。勝ち負けに目を開かされた生徒は、勝者にしか価値を置かず、敗者を見下し、本来の音楽の喜びや本質を見失って行きます。

そもそも「部活動」のルーツは、向上心に溢れた生徒たちの「サークル」「同好会」でした。ある

いは熱血の教師に啓発されて集う「クラブ」でありました。

昨今は小規模校がどんどん統廃合されていますが、昔は小規模校は当たり前でした。

私の通った頃の中学校も小規模校でしたが、良かったことは、運動部も文化部も、そのほかの学校行事も自由にさせてもらえたことです。

私は運動部はバレー部に入部しましたが、先生は傍観するだけで、大会には生徒だけで参加しました。勝つことはありませんでしたが、それでもバレーボールは大好きになり、その後も高校、大学、社会人と、その都度球技大会に参加し奮闘しました。

運動会では5人でブラスバンドを結成し、開会式の入場行進を演奏させてもらいました。

また、生徒会長選挙に立候補し「窓々から歌声の聞こえてくる学校にする！」と大見得を切ったため、「校内合唱コンクール」を実施しなくてはならない羽目となりました。

このように私の中学校時代は運動部、文化部、そして生徒会など、いろいろなことが自由に経験できる、楽しい学校生活でした。先生方は、ただ黙って見守って下さっていました。最近の学校のように、一つの部活動しか体験できない時代に育っていれば、運動好きの私は音楽の道に進んでいなかったかもしれません。好きなことを自由にさせてもらえた時代に生まれた私はラッキーでした！

今の生徒さんたちは、自分のやりたいことを、本当に、自由にやれているでしょうか？

決して「好き勝手にする」という意味ではなく、「真にやりたいことを模索する自由」は若者の特権であるし、青春の糧にもなります。

今後、学校側が部活動を指導出来ないというなら、せめて生徒の自由な活動を応援してもらえないものでしょうか？「傍観するだけ」でいいのです。生徒は先生とのかかわり以上に、生徒同士のかかわりによって大きく成長するものです。そんな中から生まれる啓発、意欲、能力は想像を絶するものがあります。きっと、サークルや同好会が次々と誕生し、活発な活動が展開されるのではないかと思います。自由に生徒の意欲と能力を開花させていくためには、今はチャンスといえるかもしれません。

この学校合奏コンクールは「日本学校合奏コンクール委員会」が主催する、楽器編成などの出場制限を設けない、自由な楽器と、自由な編成でも参加が可能なコンクールです。

編成に多様性を許容したこのコンクールは、「フレキシブル」な編成を追求することで少人数でも参加が可能で、小規模校にも勇気と光を与えるものです。その「信条」は着々と全国に伝わっているように思えます。

「コンクール」の性格は緩和されますが、本来、純粋に音楽が好きで演奏したいと考える生徒たちにとっては、入賞したり勝ち負けしたりすることは、大して重要な意味は持たない筈です。

勝敗に一喜一憂するのは、スポーツやコンクールで勝つことのみ、成績のみを追求し、勝ったチーム、優勝したチームのみ光と価値が与えられるという、「残酷な」現実の中から生み出されたものです。純粋に「やりたいことを行う喜び」とは、かけ離れた方向に突っ走っていることに、何の疑問も抱いていないのが、現在の「競争社会」です。

楽器編成などの制限を設けないというこの「学校器楽合奏コンクール」は、ジャンルが千変万化拡大し、コンクールの競い合うという要素が緩和され、「音楽祭的様相」が濃くなるかもしれませんが、成績よりも、自分たちのやりたい音楽ができるという喜びが再発見され、「音楽したい心」を大切にするという、本来の「ボランティア精神」の真意を考え直す、好機であるかもしれません。

V 令和5年度 徳島県学校音楽祭(合唱の部)

第90回NHK全国学校音楽コンクール徳島県大会

1 日 時 令和5年8月18日(金)

2 会 場 藍住町総合文化ホール

3 課 題 曲 「鳥よ空へ」
作詩：劇団 ひとり 作曲：信長 貴富

4 審 査 員 徳島県立総合教育センター 指導主事 上原 祥子
徳島文理大学 教授 河口 雅子
高知県合唱連盟 理事長 坂本 雅代
声楽家 戸邊 祐子
四国大学 准教授 美馬 大作 (五十音順)

5 プログラム(自由曲)

校 名	自由曲 作詞・作曲	指揮者	伴奏者
名西高等学校 (女声三部合唱)	「Drei geistliche Chore Op.37 (3つの宗教合唱曲)」から O bone Jesu (おお いつくしみ深きイエスよ) 作曲 Johannes Brahms	森本 奈央子	上原 慎太郎
(女声合唱)	「Drei geistliche Chore Op.37 (3つの宗教合唱曲)」から Regina coeli (天の女王) 作曲 Johannes Brahms		
城北高等学校 (女声三部合唱)	群青 作詞 福島県立相馬市立小高中学校 平成24年度卒業生 作曲 小田 美樹 編曲 信長 貴富	石川 宏美	三村 加奈
徳島市立高等学校 (女声三部合唱)	T i m e 作詞 サラ・オイレン 作曲 加藤 昌則	岸 秀典	美馬 かおり
徳島北高等学校 (混声四部合唱)	「木に寄せる5つの歌」から 木 作詞 辻 征夫 作曲 三宅 悠太	榎 一二三	岡田 花奏
城東高等学校 (女声三部合唱)	鋏 一 女声合唱とピアノのための一 作詞 三角 みづ紀 作曲 名田 綾子	井上 郁代	谷口 友菜

コロナ禍に対応した昨年度までとは違い、本年度は各校における練習体制もかなり緩和されてきてはいますが、まだまだ環境や体調等を配慮する中で、自分たちの音楽を創りあげることには大変なご苦労があったと思います。しかし、こうした状況下においても、本年度の高校生の皆さんの演奏や表現力の向上には、大変すばらしく大きな感動を覚えました。

今年で90回という節目を迎えた本コンクールですが、毎年の課題曲との出会いは大変新鮮であり、初めて楽譜を手にし、音源を聴いた時の感動こそが、曲の持つイメージの膨らみにつながり、練習の糧への大きなステップになると思います。言葉が音楽になり、フレーズが流れ、各声部のハーモニーが重なり、作曲者や作詞家の想いを感じ、さらに、一人一人の想いを紡ぎながら自分たちの音楽を創り上げていく過程を経て、全員が一体となって歌いあげる表現はなんと素晴らしい喜びであるか、合唱を通していつも感じることです。

今年のNコン 90 のテーマは「地図」。「幼いころ自分の周りだけだった小さな地図は、いつか世界へつながる大きな地図になる。さあ踏み出そう、まだ見ぬ世界へ、人生でどんな地図を描くかは自分次第！」というメッセージが込められています。高校の課題曲「鳥よ 空へ」は、まさにこれから皆さんが様々な経験を共にし、やがて各々の目的地である場所へ飛んでいく、その別れの瞬間を詩に託していると作詞者の劇団ひとり氏は述べられています。また、この詩を受けて、作曲家の信長貴富氏は、上昇気流に乗って伸びやかに飛翔する旋律の揚力と重力が均衡するかしないかのところに浮遊しているイメージ。テンポでは、うねりや勢いが生じるイメージでその瞬間にしか存在し得ないアンサンブルが生まれることを期待しておられます。

そうした想いを受けて、この曲では次のような点が重要ではないかと思います。①主旋律のフレーズ感の豊かさあふれる表現（テンポ感や響きの深さを含めて） ②曲の変化を感得表現し、その変化に対応した豊かに伸びやかに歌いあげていく表現 ③拍節感や細かなリズムにある響きの歌い方と上行するリズムの表現 ④曲の最後の高まりや拡がりに向けての感情表現、等を感じました。

皆さんの演奏を聴かせていただき、この曲の持つ曲想を各校それぞれにイメージし、未来に向かって大きく羽ばたく想いを美しい歌声とハーモニーで力強く豊かに表現されておられたことに対し、大変感動し、音楽の持つすばらしさを改めて感じさせていただきました。本日の演奏までに様々な過程を経て一人一人が創り上げてきた、そのあふれる表情や表現と皆さんの想いが歌い合わせる中で、響き合い、一層大きな感動の渦が生まれたように思います。

何よりも皆さん自身が自分の未来をイメージし、仲間とともに歩むすばらしさを感じる想いが創られたことでしょう。そうしたことが、一人一人の想いが紡がれた素晴らしい声、表現、演奏に繋がっていたと思います。

最後に、今日の皆さん方の演奏が各学校中に響き、すべての生徒さんたちにとっても素敵な歌として残り、繋がってくれることも大きな意義があるのではないかと期待するところです。

それでは、審査にあたっていたいただいた5名の先生方のご意見をまとめ、各高の演奏について述べたいと思います。

【名西高等学校】

課題曲、自由曲ともに響きのある魅力ある美しい声で丁寧に仕上げられ、素晴らしい演奏でした。第1声からみなさんの世界に引き込まれました。表情がもう少し柔らかくなるとさらに美しいハーモニーや表現に繋がると思います。

〈課題曲〉豊かな響きの余裕ある声、詩を大切にしながら曲想の流れや組み立て等、洗練された演奏でした。各パートの響きも大変美しく充実しており、見事なハーモニーとなっていました。曲の分析的で、それに伴う曲想表現があり、完成度の高い仕上がりであったと思います。

〈自由曲〉アカペラの持つ透明感や繊細さが十分に生かされ、個々の力に裏打ちされた立派な演奏だったと思います。ソロの素晴らしい歌声とバランスの取れた合唱に感動しました。ただ発音で「e」の発音をもう少し奥行きをもって発音することで、よりレベルの高い仕上がりに繋がったと思いました。

【城北高校】

一人一人が魅力的な声を持っておられ、合唱の中で互いを響き合わせ、うまく調和できていたと思います。少人数ながらダイナミクスを上手に工夫し、聴き手を引き付ける温かい演奏でした。もう少し声楽的な発声が欲しいと思うパートがありました。メゾの皆さんはもう少し主張してください。

〈課題曲〉一人一人の澄んだ美しい声に癒されました。少人数ながら立派な演奏でした。ピッチが正確で、声も明るく爽やかでしたが、豊かな響きがつくとより音楽表現に幅ができると思います。バランスも調和がとられ、心温まる演奏でした。

〈自由曲〉出だしがとてもよかったです。一人一人の優しい声と心がこちらまで響いてきました。力まず、心を表現するという意味からも素晴らしい演奏でした。少人数だからこそできる細かな表現、フレーズを大切にしたい各パートバランスの取れた城北高校ならではのいい演奏であったと思います。

【徳島市立高校】

高校生らしい爽やかな歌声でした。課題曲、自由曲ともにそれぞれの曲趣を捉えられ、様々な表現がみられる楽しい演奏を聴かせていただきました。3声のバランスを考え、響きの統制が図られていましたが、ソプラノパートがもう少し前に出てくるとさらにバランスが良くなると思います。

〈課題曲〉よく声が出ており、各パートも充実し、全体的によくまとまっていましたが、tempo 感、リズム、抑揚等、曲想表現の工夫がほしいと思いました。バランスとしては、メゾが強く、主旋律が聴こえない部分があります。他のパートをよく聴き、絡み合いながら曲を仕上げてください。

〈自由曲〉英語の部分はもっと立体的な声にして、日本語との差を付けてください。しゃべり方も緊迫感のある言葉さばきを工夫し、曲の面白さや良さを追及してください。全体的に、よく歌われていましたが、この曲の持つ特色を分析し表現すれば、さらにより高いレベルの演奏に結びつきます。

【徳島北高校】

音楽の構成や4声のバランスにより、人数以上の演奏効果を感じることができました。特に女声パートの響きに統制がありました。男声の表現の意思が強く感じられ、音楽に表情を与えてくれましたが、男声の音程が確立すればさらにレベルの高い演奏になると思います。

〈課題曲〉各パートの響きが充実しており、曲の変化に対応した表現がなされていました。フレーズをたっぷりと表現するなど素晴らしい演奏でした。少し音程の不安定な部分がありますが、各パー

トがもう少し共に響き合わせることで拡がりのある演奏に繋がると思います。

〈自由曲〉曲全体の分析をしっかりとて、対応した表現は素晴らしかったです。もう少し曲全体の構成を大きく捉え、しっかりとした枠組みの中での表現がなされればより曲全体が高まったと思います。課題曲同様、音程面での不安定さが残念に思いました。少人数では特に音程の正確さが求められます。

【城東高校】

様々な表情が歌声に乘せられ、魅力的で楽しい演奏でした。言葉が大変丁寧で、さらに音色変化により言葉のニュアンスが繊細に表現されていました。爽やかで響きのある美しい声、豊かなフレーズ感の表現は完成度の高い演奏であったと思います。

〈課題曲〉爽やかで明るく、美しい声ですが、時々言葉が細切れに聴こえる部分があります。しっかりと言葉の響きを持って大きなフレーズを創ってほしいと思います。また、フレーズの最後の音を伸ばす時にもう少し工夫を心掛けてほしいと思いました。

〈自由曲〉声に合っている選曲であったと思います。充実したハーモニー、フレーズ感、言葉の表現が見事でした。一つの曲の中でいろいろな色が見えて楽しませていただきました。細部でもう少し表現の工夫がほしいと思いますが、全体的には大変素敵な演奏でした。



VI 令和5年（2023年）度 人権に関する児童生徒の作品

●作詞作曲部門 県知事賞

徳島県立名西高等学校芸術音楽コース23HR

『from ME to the WORLD』

【作詞・作曲に際して】

この曲は、「人権尊重・人・命・ふれあい」をテーマに作詞・作曲しました。
友達や家族との身近な世界から、国と国で争いが起きている大きな世界まで、様々な世界がある中で、
私たちから世界へ発信できることはないか考えながらつくりました。演奏では、ヴォーカルとピアノ
のほかにもたくさんの楽器を使用し、多様性を表現しました。

『from ME to the WORLD』

作詞・作曲 徳島県立名西高等学校芸術音楽コース23HR

僕が立ち止まったとき 背中押してくれた
その手の温かさは 今も覚えているよ
だからきみがつらい時は 1人で悩まないで
きみがくれた勇気の翼 次は僕が届けるよ

笑顔広がるこの世界は なんと美しいことだろうか
ずっと笑って ずっと歌って ずっと輝いて

僕がなっていたとき そばにいてくれた
その優しさは 今も覚えているよ
もしも君が苦しい時はとなりを見てね
君がくれた笑顔の花 次は僕が届けるよ

世界から聞こえてくる ケンカの声 イヤな音
かけがえのない大事な命 共に守っていこう

笑顔きらめくこの世界は なんと美しいことか
もっと笑って もっと歌って もっと もっと もっと
もっと輝いて

from ME to the WORLD

作詞・作曲 徳島県立名西高等学校芸術科音楽コース23組

ぼくが立ち止まったときせなかおしてくれた その
 ぼくが ないて いたときそばにいてくれた その

手のあたたかさは いまも おぼえて いるーよ だかし
 やきーしーきー は いまも おもいだせるーよ もし

ら きみが ついときは ひ とりでなやまないで きみ
 も きみが くる しいときは と なーりーをーみてね きみ

11.
 が くれた ゆうきの つばき つぎ はぼくがとどけるよ えが
 が くれた えが おの はな つぎ はぼくがとどけるー

17.
 おひらがる このせかいはなんとうつくしいこ とだろうかもー

21.
 とわらーつてもー どうたーつて もー ー とかが やいて

25. 2.
 よ せ かいから聞こえてくるけんかのこえいやな おとかけ

30.
 がは のない だいにいのち とむ に まもって いこう えが

34.
 おきらめく このせかいはなん とにぎやかなこ とだろうかず

38.
 とわらーつてずー どうたーつて ずー とかが やいて えが

42.
 おひらがる このせかいはなんとうつくしいこ とだろうかもー

46.
 とわらーつてもー どうたーつてもー ともーともーと も

50.
 ー とかが やいて

Ⅶ 実践報告

1. フレッシュ研修Ⅰを終えて

名西高等学校 丸岡 聖子

フレッシュ研修Ⅰを通して、授業技術、学級運営の方法、部活動指導、家庭や地域との連携など、教員として必要なことをたくさん勉強させていただきました。研修にあたり、ご指導くださった先生方、ありがとうございました。

10月に行った研究授業では「この道」の歌唱の授業を行いました。1番と3番の歌詞を比較することによって、表現方法の工夫を考えやすくし、強弱や速度を考えたり、歌詞の情景を想像することによって歌い方がどのように変化するかを、生徒が自ら考えることができるように、プリント作成や生徒への声かけ、伴奏の方法、班作り、板書などを工夫しました。研究授業前には、指導主事の上原祥子先生に指導案の書き方や授業の進め方、グループ活動の際の机の配置方法など、授業をする上で大切なことをたくさん教えていただき、教科指導員の新居先生は、グループの意見を全体に共有する際に、タブレット、実物投影機、スクリーン、どの機材をどのように活用したら良いかを一緒に考えてくださったり、授業で活用するプリントについてご助言いただき、森本先生には歌唱の授業をする際に情景を想像させることの大切さ、ポイントを何カ所かにしぼることの大切さを教えていただき、上原先生には歌唱の授業の際にキーボードを活用することによって生徒が思考しやすくなるということや、プリントに記入させる際の声かけなどについてもご指導いただきました。研究協議では、板書の仕方や、全員で歌唱する際の男子の立ち位置、授業のまとめをする際に、教員がまとめをする方法だけではなく、生徒同士で1分程度話し合いをさせて、生徒の気づきを発表させる方法もあるとご助言いただきました。生徒については、意欲的な生徒が多く、歌唱技能も高く、授業の雰囲気も良く、思考力が素晴らしいと言っていました。コロナ禍により、中学生のときに歌唱ができた生徒もいれば、歌唱ができず、鑑賞の授業が多かった生徒もいる中、全員がしっかり歌唱をすることができているので、これからも音楽の楽しさ、素晴らしさを伝えていけるように授業を行いたいです。

赴任してすぐは、名西高等学校の音楽コースの授業内容や部活動、1年間の行事など、担任を持つのも初めてで分からないことばかりでした。しかし、音楽科の先生方、校内指導教員の向井先生、他の先生方など素晴らしい方ばかりで、毎日忙しいながらも充実した楽しい毎日を過ごすことができました。また、担任を持っているクラスの生徒は素直で明るく、何事にも前向きに努力ができる子ばかりで、毎日生徒から元気をもらっています。1年間で学んだことを生かし、専門性を高め、日々努力し続けたいです。今後ともご指導よろしくお願いいたします。

芸術科「音楽Ⅰ」学習指導案

令和5年10月26日 第2校時
名西高等学校 1年1組・2組21名
指導者 丸岡 聖子

1 題 材 名 「日本語の語感や言葉のリズムを生かして、表現豊かに歌おう」

2 題材の目標

- (1) 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 「この道」の旋律、強弱を知覚しそれらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫する。
(思考力、判断力、表現力)
- (3) 「この道」の歌詞の語感や自然な抑揚の特徴と曲想との関わりに関心をもち、歌唱の学習活動に主体的・協働的に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。(学びに向かう力、人間性等)

3 教 材 「この道」北原白秋 作詞 山田耕筰 作曲

4 題材について

(1) 生徒の実態

本校の1年生は、1組2組合同で音楽の授業を行っている。1人1人が積極的に授業に参加しており、女子はのびのびとした歌声で、男子は音程を取るのが難しいものの、力強い声で歌唱をすることができている。校歌の歌唱の際には、教員が範唱するとすぐにそれに倣って歌唱することができた。曲の表現方法についてグループで話し合わせた際にも、曲を聴いて感じたことや表現したいことを積極的に伝え合い練習することができていた。

(2) 教材について

本題材では、日本歌曲をより表現豊かに歌唱するために、歌詞に描かれている情景や心情だけでなく、日本語の響きの特徴に着目し、言葉と音楽との関わりを捉えるとともに、その特徴を生かしながら歌唱するために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方を身に付け、表現を創意工夫することをねらいとする。

「この道」は歌詞の第1連と第2連では、樺太旅行の帰りに立ち寄った札幌で見た風景の印象が歌われており、第3連と4連では、白秋自身の幼少期の思い出や母に対する思いが歌われている。五七調をもとにしている歌詞は、各節第2行の「ああ、そうだよ、」の部分のみ6音となり、作詞者の豊かな感情が表現されている。この詩がつくられた背景とともに詩の内容を理解し、かつ情景を思い浮かべて、歌唱表現の工夫に結び付けることができる。楽譜に書かれている強弱記号と歌唱表現の工夫を結びつけながら、自己のイメージをもって表現豊かに歌唱させたい。

(3) 指導にあたって

日本語の抑揚や間を旋律に生かすために、どのように表現したら良いのかを考えさせたい。

曲の特徴を感じ取り、日本語のもつ言葉の特性を生かし、歌詞の意味を考えながら、自分の感じたことを自分の言葉で表現し、音楽表現に生かせるように指導する。

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

音楽Ⅰ A 表現 (1) 歌唱

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。

イ (ア) 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解すること。

ウ (ア) 曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けること。

〔共通事項〕(1)

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「旋律」「強弱」)

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。 技 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けている。	思 「この道」の速度、旋律を知覚しそれらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫している。	態 「この道」の歌詞の語感や自然な抑揚の特徴と曲想との関わりに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画(本時2/3時間)

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価(◆評価方法)		
		知・技	思	態
1	◎歌詞の情景を想像し、曲全体の雰囲気を感じ取り歌唱する。			
	●歌詞の背景や意味を理解し、情景を想像する。 ・既習曲「赤とんぼ」を歌唱する。 ・教科書を見ながら「この道」の範唱を聴く。 ・1番から4番の歌詞を音読する。 ・あかしやの花、白い時計台、さんざしの枝の写真を見せ、曲の情景を想像させる。 ・1番から4番を範唱に倣って歌唱する。 ・歌詞の内容を理解し、情景を想像する。	◆観察 知		
2	◎日本語の語感や言葉のリズムによって生まれる表現方法の工夫を考える。			
	●表現方法の工夫を考える。		◆観察	

	・全員で斉唱する。 ・1番と4番の歌詞を比較し、速度や表現の工夫について根拠と共に個人で考える。 ・個人で考えたことをグループで共有し、表現の工夫をまとめる。 ・グループの意見を全体で共有し、表現の工夫の部分で歌唱する。		◆ワークシート 図	
3	◎歌詞の内容のもつ語感や自然な抑揚と曲想との関わりを総合的に捉え、表情豊かな歌唱表現を工夫する。			
	・前時の学習を生かし、どのように歌いたいか楽譜に記入する。 ・歌唱練習を行う。 ・グループ内発表を行う。	◆観察 ◆ワークシート 図		◆観察 ◆ワークシート 図

8 本時の学習

(1)目標 日本語の語感や言葉のリズムによって生まれる表現方法の工夫を考える。

(2)展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準◆評価方法	要素
1 これまでの学習を振り返り、本時の目標を確認する。	○これまでの学習を振り返り、グループで表現の工夫を行うということを伝える。		速度 旋律
2 斉唱する。	○これまでの活動を振り返り、歌詞の情景を想像しながら歌唱させる。		
3 表現方法の工夫を、プリントに記入する。 ・個人で表現の工夫を考える。 ・個人で考えた表現の工夫をグループで共有する。 ・グループの意見を全体に発表する。	○表現を工夫したい箇所にどのように工夫したいか書き込ませる。 ○話し合いを行い、意見をまとめる。 ○各グループの意見を実物投影機で全体に共有す	◇「この道」の速度、旋律を知覚しそれらの働きを感じ受しながら、知覚したものと感受したことの関わりについて考え、自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫している。 ◆観察・ワークシート【思】	

る。 ・表現の工夫の違いを歌唱する。	る。 ○表現方法の工夫を歌唱しやすくするために、伴奏も工夫する。		
4 本時のまとめとして、授業を振り返る。	○速度を工夫することで表現が豊かになることを知覚、感受させる。		

(3) 評価及び指導(手立て)

〈思考・判断・表現〉

A「十分満足できる」と判断される具体的な状況	音楽の特徴と表現の工夫を関連付けながら、楽曲に込められた作曲者や作詞者の思いや意図を、自分の感情や生活経験と結び付けて捉え、自分としての感じ方を広げ、ワークシートに書いている。
B「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導(手立て)	音楽の特徴と表現の工夫を、他者の意見を聞きながら自分の意見に近いものをワークシートに書くことができるように促す。

使用プリント

この道
1 番・4 番

作詞：北原白秋
作曲：山田耕筰

ゆるく・静かに ♩ = 54

このみちはいつかきたみち ああーそうだ

よーあかしやーのーはながさいてる

あおくちもーいづみたくも ああーそうだ

よーさんざしーのーえだもたれてる

() 班 HR 氏名

4月から始まったフレッシュ研修Ⅰも終わりが近づいてきた。特別支援学校に勤務をすることになったが特別支援学校の実状について全く知らない中で4月が始まった。校内研修では一般研修と授業研修でそれぞれの指導教員の先生方にご指導いただいた。一般研修では特別支援学校について初歩的なことや専門的なことまでご指導いただいた。勤務校の生徒や自身が担任しているHRの生徒を例としてより実践的な研修を行っていただいたことで、日頃の学校生活や授業において生かすことができた。また、自立活動の研究授業にむけての指導案やより良い授業にむけての手立てなど自立活動について一からご指導いただいた、その中で徐々にではあるが自分の中で「こうしたい」、「こうなってほしい」などといった思いが生まれた。

授業研修では音楽教員としての姿勢やあり方について学ばせていただいた。特別支援学校で音楽の授業がどのように行われているかといった具体的なイメージは浮かばないままだった。勤務校での初めての音楽授業では自身が今まで実習や大学の講義の中で経験した授業とは全く違い、どのような手立てで目標に向かっていけば良いのかが分からなかった。その中で指導教員の先生による示範授業では実際に生徒の反応を見ることで自身が授業を実践する際の具体的なイメージが浮かびやすかった。また、T2として授業に入ることで生徒がどのような支援が必要かといったことについて理解を深めることができた。協議の中で自身の授業を計画するうえでの見立てや教材研究の甘さも痛感した。初歩的なことから専門的なことまでの確にお教えいただいたことで3学期頃には少しではあるが自身が計画した授業ができるようになってきた。これからも指摘していただいたことを生かし、常に振り返り、より良い授業ができるように改善に努めたい。

校外研修では、教員として必要なスキルや、専門性の向上についてや、教育関係の法律や学習指導要領などについての講義などが非常に有益だった。色々な視点を持つことでこれからの教員生活に活かせると感じている。また、話し合いや、発表などを重ねるなかで特別支援学校や高等学校の先生方だけでなく、小学校や中学校で勤務されている先生方とも話す機会があり、自身にはない視点を多く得ることができた。さらに、授業スキルアップ研修では実際に模擬授業をしたり、見る側として参加したことで授業での目標やその目標に向かうまでの手立てなど多くの発見があった。今後の授業で有効的に活用していきたい。

フレッシュ研修Ⅰでは、校内、校外問わずこれからの教員生活の礎になる内容ばかりだった。分からないことを聞きやすい環境を作っていただいたり、より多くの視点を与えてくださったことでフレッシュ研修Ⅰを積極的に受けたいと思えるようになった。この1年間学んだことを来年度からも活かすだけでなく、自分自身で考え、行動し常に成長し続けていきたいと考える。

音楽科学習指導案

授業日時 令和5年9月27日(水) 6校時

対 象 高等部 1HR (3名)

場 所 音楽室

指 導 者 藤本 壮 (T1)

1 題材名 「動物の謝肉祭」を聴いて、曲から受けるイメージを捉えよう！

2 題材の目標

- (1) 「動物の謝肉祭」の各曲の曲想と、リズム・速度・音色との関わりが分かる。
- (2) 「動物の謝肉祭」のリズム・速度・音色、各曲の特徴を聴きとり、曲想を表す言葉とつなげるとともに、それらの関わりが生む曲の良さを味わって聴く。
- (3) 「動物の謝肉祭」の各曲を構成するリズム・速度・音色に関心をもち、主体的に鑑賞に取り組むとともに、演奏形態や演奏楽器への興味を高める。

3 教材 「動物の謝肉祭」サン＝サーンス作曲

4 題材について

(1) 生徒の実態

本 HR の生徒は1年生男子2名、2年生男子1名である。1年生の1名は地域の中学校から本校高等部へ入学してきた。4月当初は緊張しながら学校生活を送っていたが、次第に慣れ、教員や他の生徒とも穏やかにコミュニケーションが取れるようになってきた。1年生2名は言葉でのやり取りができ、音楽の授業でも教員からの「もう少し大きく鳴らせる？」、「〇〇(楽器の名前)とってきて」などの指示に対しても理解して活動に移す姿が見られる。2年生1名は隣接する医療施設に入所しており、感染症予防のため授業時数に制限があるが、各教科や自立活動の中で根気強く活動に取り組み、教員の質問に対して指差しなどの仕草で応えて意思を伝えようとする姿が見られる。

音楽の授業における表現活動では、1学期は歌唱と器楽を実践した。歌唱では教員の範唱を頼りに意欲的に歌うことができていた。7月の「夏の思い出」の授業では歌詞の意味と強弱記号と関わりについて学習し、自分自身で表現を工夫する姿が見られた。器楽では「はじまりの歌」で曲に合わせたリズム(タイミング)や強さで演奏することができつつある。

鑑賞活動では、6月の「歓喜の歌(交響曲第9番)」でオーケストラの楽器や曲の構成、作曲者について学習した。鑑賞後に感想を求めると教員からヒントをもらいながら、自分の感想を言うことができた。2学期以降では、音楽を形づくっている要素に着目し、それがどのような効果を生み出しているのかに注目していくといった力を身に付けてほしい。「〇〇の音が低いから暗く感じた」、「すごい速度が速かったから、かつこよく感じて好き」など、音楽に心を揺さぶられる理由を音楽を形づくっている要素から見つけ出し、発言や文章(単語)で表すことで、他者に伝えられるようになることに期待したい。

(2) 教材について

「動物の謝肉祭」はサン＝サーンスが室内楽編成用として作曲した、全14曲からなる楽曲である。動物がい

る情景や動き、鳴き声を様々な演奏方法で表現している。各曲の特徴的なリズム・速度・音色と曲想との関わりに着目し、その音楽の良さを見つける力を身に着けるために有効であると考えた。

(3) 指導に当たって

「動物の謝肉祭」に登場する動物は、生徒にとって実際に見る、触れる、鳴き声を聞くなどの経験が少ない動物も存在する。動画を用いるなど、対象の動物の特徴について具体的なイメージを持てるような活動を取り入れる。実際に演奏したり、生の演奏を聴き比べたりする体験的な活動で動物の特徴を表しているリズム・速度・音色と曲想の関わりについて気づきやすくし、主体的に鑑賞に取り組めるように心がけたい。そして、日常生活で音楽を聴いた際にも、楽曲の中に良さを見つけ、その良さを他者と共有しながら音楽を楽しむ姿に近づけたい。

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

特別支援学校（知的）中学部 1 段階 B 鑑賞

ア（ア）鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら曲や演奏の良さを見いだして聴くこと。

（イ）曲想とリズムや速度、旋律の特徴との関わりについて分かること。

（共通事項）(1) ア 速度・音色・リズム

6 題材の評価規準

知識	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「動物の謝肉祭」の各曲の曲想と、リズム・速度・音色との関わりに気付いている。	「動物の謝肉祭」のリズム・速度・音色、各曲の特徴を聴きとり、曲想を表す言葉とつなげるとともに、それらの関わりが生む曲の良さを味わって聴いている。	「動物の謝肉祭」の各曲を構成するリズム・速度・音色に関心をもち、主体的に鑑賞に取り組むとともに、演奏形態や演奏楽器への興味が高まっている。

7 指導と評価の計画（本時 7 / 7 時間）

時	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価（1 評価方法）		
		知	思・判・表	態
1. 2	◎「動物の謝肉祭」より「序奏と堂々たる獅子王の行進」、「白鳥」を聴き、動物としての特徴と、音楽の特徴の共通点について考える。			
	●「動物の謝肉祭」について学習する。 ・作曲者や年代、どのような楽曲かを学習する。 ●「序奏と堂々たる獅子王の行進」を聴いて、ライオンの動物としての特徴と音楽との関わりについて学習する。 ・「序奏と堂々たる獅子王の行進」を聴き、何の動物を表現しているかについて考える。 ・ライオンの動物としての特徴について知る。 ・ライオンの鳴き声とピアノの演奏がどのように関	観察知	ワークシート ・観察思	

	わっているかについて学習する。 ●「白鳥」を聴いて、動物としての特徴と演奏楽器との関わりについて学習する。 ・「白鳥」を聴いて、何の動物を表現しているかについて学習する。 ・演奏している楽器（チェロ・ピアノ）について学習する。 ・白鳥以外のもの（水面などの景色）を考え、「情景」と音楽との関わりについて学習する。			
3	◎「動物の謝肉祭」より「亀」を聴き、速度に着目して曲から受けるイメージを捉える。 ●「亀」の動物としての特徴と音楽の特徴の共通点を捉える。 ・「亀」と「天国と地獄」を聴き、速度について確認する。 ・速度に合わせて、動く体験をして、動物としての亀の特徴を表す演奏方法として合うのはどちらかを考える。 ・速度の違いと「亀」の動物としての特徴との共通点を見つけ、速度と表現との関わりについて学習する。			
4	◎「動物の謝肉祭」より「カンガルー」を聴き、リズムに着目して、曲から受けるイメージを捉える。 ●「カンガルー」の動きとリズム、上行形、下降形との関わりについて考える。 ・「カンガルー」を聴き、何の動物を表現しているかについて考える。 ・カンガルーの映像を見て、動物としての特徴について知る。 ・上行形に着目し、短い音でキーボードを使い2音（半音）ずつ5回上行形、下降形で演奏し、それらの指の動きなどを通して、「カンガルー」の動物としての特徴と音楽の特徴との共通点について学習する。			
5. 6	◎「動物の謝肉祭」より、「大きな鳥かご」と「象」を聴き、音色に着目して曲から受けるイメージを捉える。 ●「大きな鳥かご」と「象」を聴き、音色がもたらす表現上の効果について考える。 ・「大きな鳥かご」を聴き、何の動物を表現しているかについて考える。 ・鳥の鳴き声を聴き、動物としての特徴について知	観察・ワークシート 知		

	る。 ・フルートについて復習し、音色に着目すること、動物としての特徴との関わりについて考える。 ・「象」を聴き、何の動物を表現しているかについて考える。 ・演奏している楽器（コントラバス）の音色に着目する。 ・音色と動物の特徴との関わりについて理解するために、低音（チューバ）と高音（リコーダー）で「象」のフレーズを聴いて比較する。			
7	◎「動物の謝肉祭」の中から、印象に残った曲を選び、曲の特徴と曲想の関わりによる曲の良さをまとめる。			
	●これまでの学習を振り返りながら鑑賞し、印象に残った曲を選ぶ。 ・各曲の着目したポイントを確認する。 ●選んだ曲の音楽的特徴と曲想との関わりをまとめる。 ・iPadを使って、紹介文を書く。 ・発表することで自身の選んだ楽曲の良さを他の人に伝える。		ワークシート (metamoji) ・観察 思・ 判・表	ワークシート (metamoji) 態

7 本時の学習

(1) 目標 曲から受けるイメージを音楽的特徴と曲想を関わらせ、曲の良さをまとめ、伝える。

(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準1評価方法	要素
1. はじまりの歌（♪たのしいね）に合わせて歌ったり、楽器を鳴らしたりする。 (5分)	○本時の流れを教室前方のテレビに映し出す。		
2. これまでの楽曲で着目したポイントを確認し、振り返る。 (8分)	○本時の目あてを板書に書き出す。 ○これまでの学習をフィードバックしながら印象に残った曲について考える。	◇「動物の謝肉祭」のリズム・速度・音色、各曲の特徴を聴きとり、曲想を表す言葉とつなげるとともに、それらの関わりが生む曲の良さを味わって聴くことができてい	速度 音色 リズム

3. 「動物の謝肉祭」で聴いた曲から印象に残った曲を選択し、紹介文をつくる。(20分)	○iPadのmetamojiを使い、筆記が苦手な生徒も取り組みやすくする。 ○各曲の着目したポイントを確認する。	1ワークシート【思・判・表】 ◇「動物の謝肉祭」の各曲を構成するリズム・速度・音色に関心をもち、主体的に鑑賞に取り組むとともに、演奏形態や演奏楽器への興味が高まっている。	
4. 紹介文を発表する。(10分)	○教室前方の画面に生徒が書いた紹介文を映し出し、視覚的にも注目ができるよう工夫する。 ○音楽を形づくっている要素と曲想が関わっていることを確認し、授業のまとめをする。	1ワークシート【態度】	
5. おわりの歌（♪星に願いを）を歌う。(2分)			

(3) 評価および指導（手立て）

〈思考・判断・表現〉

A「十分満足できる」と判断される具体的な状況	自分が印象に残った曲と、音楽を形づくっている要素の関わりを考え、これまでに学習したことを踏まえて、紹介文をまとめるができています。
B「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）	ワークシートを見返し、学習内容や生徒の様子をフィードバックしながら選ぶ曲と一緒に決め、着目ポイントを確認する。

〈主体的に学習に取り組む態度〉

A「十分満足できる」と判断される具体的な状況	「動物の謝肉祭」の各曲を構成するリズム・速度・音色に関心をもち、主体的に鑑賞に取り組んでいる。
B「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手立て）	動物について考える際は、生徒の経験に合わせた質問をして、動物についての具体的なイメージができるように確認する。

2. フレッシュ研修Ⅱを終えて

城西高等学校 森長 友希

フレッシュ研修Ⅱでは、研究授業を2回行ったり、企業等研修など学びの多い1年でした。1回目の研究授業はボディー・パーカッション、2回目はピアノ曲の鑑賞を行いました。研究授業では、指導案を作成する中で授業内容について深く考え、よりよい授業を行うために改善を重ねることができたと思います。

今年は、2学年の正担任として、修学旅行の引率や文化祭でのクラス展示など、初めての事を経験しました。周りの先生方から教師がすべきことについて教えていただき、新たに知ることが沢山ありました。2年目も残り僅かとなりましたが、気を抜かずに取り組みたいです。そして、5年次研修に向けて、自分の決めた目標を達成できるよう努力しようと思います。

楽科学習指導案

指導者 森長 友希

- 1 履修単位数 2 単位
- 2 実施日時 令和5年9月19日（火）第2校時
- 3 学級 13・14HR音楽Ⅰ選択者（17名）
- 4 題材名 ピアノによるさまざまな表現効果を聴き取ろう
- 5 題材の目標
 - （1）曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解する。
 - （2）音色・旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴く。
 - （3）ピアノの表現効果や時代による音楽の特徴に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。
- 6 教材 《平均律クラヴィーア曲集》第一巻から
 第1番ハ長調〈プレリュードとフーガ〉／バッハ
 ピアノソナタ第23番ヘ短調op.57《熱情》／ベートーヴェン
- 7 題材設定の理由
 本校は科別にクラス編成されており、13HRは食品科学科、14HRはアグリビジネス科のクラスである。13・14HRの音楽選択者は、落ち着いており発言等は控えめであるが、意欲的に授業に取り組むことができる。授業の中で、生徒たちが自分の考えや感じたことを自分の言

葉で表現することが苦手であると感じたため、他者の意見を踏まえながら、自分なりの考えや価値を見出せるようグループ活動で授業を行う。1学期の授業の中で、グループ活動を通して他者との調和を意識してきたため、互いに協力し、活動が出来ると感じている。

本教材は、有名なピアノ曲である。鑑賞の授業では管弦楽などの教材を用いることが多く、ピアノ曲は教科書にあまり掲載されていないため、素晴らしいピアノ曲が沢山あることを知ってもらいたい。1曲目は、アルペジオ音型のシンプルで美しい曲である。チェンバロとピアノによる演奏を聴き比べることで、音色や強弱などをつかみ取りやすい。2曲目は、ベートーヴェンらしい激しい感情が表現されている曲である。大胆な強弱の変化、轟くような和音、高速なパッセージなど様々な表現方法があるため、強弱や表現の変化が分かりやすい。また、時代によって異なる音色や旋律を聴くことで、音楽のよさや美しさを自ら味わいながら音楽文化に対する理解をより深めることができると考え、本教材を設定した。

鑑賞においては、まず作品への興味・関心を深めることが重要であると考え。そのため、2時間目に調べ学習を行う。本時では、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解できるよう、鑑賞の感想を共有し、他者の意見を聞くことで作品への理解が深められるよう指導を行う。

8 本教材で扱う学習指導要領の内容

ア（ア）曲や演奏に対する評価とその根拠

イ（ア）曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり

〔共通事項〕（1）

（本教材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「旋律」）

9 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。	思音色・旋律を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。	態ピアノの表現効果や時代による音楽の特徴に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

10 指導と評価の計画（本時3／4時間）

時	教材	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価（◆評価方法）		
			知・技	思	態

1 ・ 2		◎ピアノについて理解し、ピアノ作品に関心をもつ。				
		●楽器の構造や奏法について理解する。 ・ピアノの歴史を知り、楽器への理解を深める。 ・タブレットを用いて、作曲者について調べる。				
3 (本時)		◎曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解する。				
		●それぞれ時代の異なるピアノ作品を鑑賞する。 ・グループ活動を通して、互いに意見を共有する。 ・タブレットを用いて意見をまとめる。	◆ワークシート ◆観察 知			
4		◎時代ごとの特徴について、理解を深める。				
		●ピアノ作品を鑑賞して、時代ごとの特徴について考える。 ・作品ごとの表現効果についてまとめる。 ・時代ごとの作品に対して、どのように感じたのかを振り返る。			◆聴取・観察 思	◆観察 ◆ワークシート 態

1 1 本時の学習

- (1) 目標 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解する。
(2) 展開

学習活動	○指導上の留意点	◇評価規準◆評価方法	要素
1 これまでの学習を振り返り、本時の目標を確認する。	○ピアノの特徴や作曲者についての学習を振り返り、授業の雰囲気作りを行う。		音色 旋律
2 作品を鑑賞する。	○鑑賞をして、気付いたことや感じたことをワークシートに記入させる。		

3 グループで意見を共有する。	○それぞれがワークシートに記入したことを、グループ内で共有するように促す。 ○グループでの話し合いが適切にできているか、机間巡視を行い生徒の様子を観察する。 ○タブレットを用いて、話し合いで出た意見をまとめさせる。	◇曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 ◆観察・ワークシート【知】	
4 クラス内で発表する。	○各グループの意見を、モニターに映し出しながら発表させる。		
5 本時の活動を振り返り、次時の活動を確認する。			

(3) 評価及び指導（手だて）

〈知〉

A（十分満足できる）と判断される具体的な状況	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりを関連付けながら、感じたことや気付いたことについて、自分の言葉でワークシートに記入している。
B（おおむね満足できる）状況を実現するための具体的な指導（手だて）	・他者の意見を踏まえながら、自分の音楽の解釈に近い他者の意見を、ワークシートに記入するように促す。

3 ジャンプアップ研修を終えて

小松島西高等学校・勝浦校 松丸 麻祐子

今年度は節目の研究授業を多くの音楽の先生方に参観して頂き、貴重な意見を頂いたことが何より勉強になりました。先生方それぞれの視点で授業を見て頂き、一人ひとりの生徒になかなか目が届いていないこともよく分かりました。夏から上原指導主事に丁寧に指導案を添削して頂き、自分が授業の中で核にしたい部分はどこなのか、最終的に評価する基準を明確にして授業を組み立てることの大切さに改めて気づくことができたように思います。お時間を作って小松島西高校までお越しくださり、本当にありがとうございました。

兼務が始まって2年目、それぞれの学校にやっと1年間勤務が終わったような気持ちです。初任校と勤務形態ががらりと変わり、はじめはどちらの学校にもなかなか所属感を持てない日々が続いていました。そんな不安な気持ちを拭い、前を向くことができたのはそれぞれの学校の生徒の存在があったからでした。授業はもちろんですが、松西の吹奏楽部、勝浦校の芸術部と民芸部、それぞれに音楽に真摯に向き合いたいという生徒の姿をサポートしたい！という気持ちが、私の心を支えてくれました。しかし、頑張る生徒一人ひとりと寄り添いたいと思えば思うほど、1週間に半分ずつしかそれぞれの学校に勤務できないもどかしさにも直面しています。限られた時間の中で目の前にいる生徒に私は何ができるのかを考えると、最初感じていた兼務の難しさとはまた違った問題が見えてきました。

勝浦校では音楽Ⅱを継続して履修することになっており、今年の文化祭でバンドを組み演奏しました。1年生の時はなかなか集中力が続かず、投げやりな態度を取ったり、すぐに諦めていた生徒が、それぞれの楽器をよく練習して1つのグループで演奏できるようになったのを見て、感極まるものがありました。終わった後に、次に演奏したい曲を探したり、難しいテクニックにも臆せずチャレンジしようとするようになり、目に見えて前向きになった生徒の様子が見えたのが本当に嬉しかったです。音楽の教員になることを志していた頃、教員採用試験の面接で「音楽を通して何を伝えたいか」と問われたときに、自信を持って「こんなことを伝えたい！」と自分の言葉で言うことができませんでした。5年目になり、音楽の授業で生徒の自信を引き出せる授業がしたいという目標を持って取り組んでいる自分の姿があることに気づきました。できないことも、練習の方法を工夫したり、演奏しやすい方法にアレンジしたりすることで、今よりもできることが増える自分に自信を持って欲しい、そのためにサポートする教員側の私の知識や経験、技術がもっともっと必要であると改めて感じています。1つでも多くの生徒の成功体験を実現できる教員になれるよう、日々邁進します。

4 ミドルリーダー研修を終えて

徳島県立城ノ内中等教育学校 坂東 遙

池田支援学校にて初任者研修を終え、今はもう無き城ノ内高等学校に赴任し、授業や部活動の指導に右往左往しながら毎日を無我夢中で過ごしていると、気付けばもう採用10年目となっていた。体感的には5年程度であった。初任者であった当時、ミドルリーダー研修を終えた、または受けておられた先生方の、その大きな背中に憧れを抱き「いつか自分も先生方のような教師になりたい！」と考えていた。しかし、いざ自分がミドルリーダー研修を受ける身となってみると、当時憧れた先輩方の足元にも及ばない未熟者である。そんな自分がなんとか無事に採用10年目を迎えることができたのは、ご助言をくださりいつも温かく支えてくださっている周りの先生方のお力添えと、毎日ともに音楽活動を行う生徒たちがくれる元気のおかげである。(心から感謝しています。)

今年度に入り、まだわずかに制約は残るもののようやく以前のようにリコーダーや歌唱の活動、各種コンクールへの参加ができるようになってきた。始業式などで全校生徒による「校歌斉唱」を久しぶりに聴いた時には、思わず涙ぐんでしまった。また、授業中に大きな口を開けていきいきと歌唱をしたり、友だちと顔を見合わせながら楽しそうにグループワークや楽器の練習をしたりしている生徒たちの様子を見て、「やっぱり音楽活動はこうでなくては！」と感じた。生徒が楽しく様々な形態での音楽活動ができるよう、今後も全力でサポートしていきたいと思う。初心と学び続ける姿勢を忘れず、感謝の気持ちをもって、これからも音楽を楽しみながら精進を重ねていきたい。

芸術科(音楽Ⅰ)学習指導案

令和 5年 11月30日(木) 第3校時
41 HR・42 HR 音楽Ⅰ選択者(16名)
指 導 者 坂 東 遙

1 題材名 「ギター演奏を楽しもう ～シャンソンに挑戦～」

2 題材の目標

- ・曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解するとともに、曲にふさわしい奏法や身体の使い方などの技能を身に付ける。
- ・リズム、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもつ。
- ・奏法による曲想の違いについて関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組むとともに、ギターに親しむ。

3 教 材 「愛の讃歌」、「オー シャンゼリゼ (本時)」

4 題材設定の理由

(1) 生徒の実態

4 1 HR・4 2 HR の 1 6 名は、歌唱や楽器の演奏・鑑賞など、音楽活動が好きな生徒が集まったクラスである。4 年生は前期課程 1 年生から授業を担当しており、これまでボディパーカッションや歌唱、ギター、鑑賞など、さまざまな音楽活動について取り組んできた。その中でもギターの活動には特に意欲的に取り組む様子が見られ、友だち同士で教え合ったり、個人的に教員に疑問点を尋ねに來たりし、熱心に練習に取り組むことができています。また、鑑賞の活動についても関心をもって取り組むことができており、8 割以上の生徒が感想用紙の最後の行まで気付いたことや感じたことなどについて記入することができている。授業の中で定期的に「好きな音楽を紹介しよう」という活動を設定し、友だちに勧めたい曲の紹介を行っているが、自分が知らない曲であっても、友だちが紹介した曲について、集中して耳を傾けたり、鑑賞が終わった後に友だち同士で感想を言い合ったりする等して、関心をもって鑑賞を行っている様子も見られる。

(2) 教材について

・「愛の讃歌」

シャンソンを代表する曲の 1 つで、1 9 4 9 年に発表されたシャンソン界を代表する歌手であるエディット・ピアフの代表作である。印象的な旋律を用いて主人公の心情を歌い上げる「ルフラン」という部分と、台詞を語るように物語の経過を歌う「クプレ」と呼ばれる部分が交互に登場する。特に「ルフラン」の部分の旋律が有名で、コマーシャルソング等にもよく使用されている。

・「オー シャンゼリゼ」

もともとはロンドンの街を歌ったイギリスの曲であったが、後にフランスの作詞家によってパリのシャンゼリゼ通りの名前に書き換えられ、1 9 6 9 年にシャンソン歌手であったジョー・ダッサンが歌ったことでシャンソンとして大ヒットし、世界中に知られるようになった。親しみやすい明るい旋律と歌詞の内容に合った弾むような軽快なリズムが用いられていることが特徴である。今回研究授業を行うクラスでは前期課程 1 年生の際に、歌唱教材として取り上げ歌唱の活動を行っている。

(3) 指導に当たって

ポピュラーソングだけではなく、さまざまな音楽について触れ、良さを味わってほしいという思いから「シャンソン」の曲を設定した。まずは、「愛の讃歌」の鑑賞や歌唱の活動を通して、「シャンソン」の歴史や楽曲構成の特徴についての学習を行う。次に、「オー シャンゼリゼ」の曲をギターで演奏し、リズムによって変化する曲想の違いを味わったり、ギター演奏の楽しさを味わったりすることにつなげたい。

クラシックやカンツォーネ、シャンソン、世界の諸民族の音楽等のさまざまな音楽について触れ、曲の文化的・歴史的背景について学んだり、歌唱や器楽などの活動を通してその曲の良さを味わったりすることで、生徒の感性を育むとともに、自分の好きな音楽の傾向や種類を新たに発見するなどし、自らの生活を明るく心豊かに過ごすことにつなげてほしいと考えている。

5 本題材で扱う学習指導要領の内容

音楽Ⅰ A 表現（２）器楽

ア 器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。

イ（イ）曲想と楽器の音色や奏法との関わり

ウ（ア）曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能

〔共通事項〕（１）

（本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「リズム」、「構成」）

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と楽器の音色や奏法との関わりについて理解する。 技 創意工夫を活かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付けている。	思 リズム、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。	態 奏法による曲想の違いについて関心をもち、器楽の学習に主体的・協働的に活動に取り組もうとしている。

7 指導と評価の計画（本時４／５時間）

時	教材	◎ねらい ●学習内容 ・学習活動	評価（◆評価方法）		
			知・技	思	態
1	「愛の讃歌」	◎「愛の讃歌」の演奏活動を通して、シャンソンの歴史や曲の特徴について知る。 ●シャンソンについて知る。 ・教科書やパワーポイントのスライドを見たりし、シャンソンの曲の構成や、歴史について知る。 ●「愛の讃歌」の歌唱を行う。 ・曲を鑑賞する。 ・フランス語の歌詞の朗読を鑑賞する。 ・「ルフラン」の部分の旋律を日本語で歌唱し、旋律の美しさを味わう。			
2	「オーシャンゼリゼ」	◎奏法による曲想の違いを知り、「オー シャンゼリゼ」をギターを用いてコード演奏する。 ●コードの確認を行う。 ・ワークシートを用いて、コードの押さえ方について知る。 ●指定された基本的なリズムを用いて、コードで	◆観察 ☐		

		演奏を行う。	知		
3 ・ 4 (本時)	「オー シャンゼ リゼ」	◎指定されたリズムの特徴を感じ取り、自分なりに組み合わせて演奏を行う。 ●指定されたリズムを自由に組み合わせて、演奏を行う。 ・前時に学習したリズムの復習を行う。 ・自分なりに自由にリズムを組み合わせて演奏を行う。 ・ワークシートに記入する。 ・スムーズに演奏ができるよう、練習を行う。 ・[3次]ワークシートを教員に提出する。		◆ワークシート・観察 	
5	「オー シャンゼ リゼ」	◎グループ内で演奏の発表を行い、意見を交換する。 ●グループ内で演奏を発表する。 ・順番を決める。 ・作成したリズムでギター演奏の発表を行う。 ・発表者の演奏を聴いて、感想カードに感想を書き込む。 ●ワークシートを用いて、自分の演奏の振り返りを行う。	◆観察 		◆観察 

8 本時の学習

(1) 目 標 曲の構成を生かして、指定されたリズムの特徴を感じ取ながら、自分なりにリズムパターンを組み合わせて表現を工夫する。

(2) 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	◇評価規準 ◆評価方法	要 素
1.前時の学習を振り返り、本時の活動の目標を明確にする。	○前時に回収していたワークシートを返却する。 ○ワークシートを用いて、リズムの特徴や奏法などについて確認させる。		
2.「オー シャンゼリゼ」の曲を歌唱する。	○歌唱を行い、旋律や曲の構成について確認させる。		
3.ギターの練習を行う。	○ギターのチューニングをさせる。 ○難しいコードの押さえ方や、コードチェンジの方法について確認させる。 ○リズムやストロークが適切にできているか、机間巡視を行い生徒の様子を	◇リズム、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように演	リ ズ ム 構 成

	観察する。 ○必要な場合は個別で指導を行う。	奏するかについて表現意図をもっている。 ◆ワークシート・観察 思	
4. ピアノの演奏に合わせて、自分が組み合わせたリズムで演奏を行う。	○教員のピアノ伴奏に合わせてギターを演奏させる。(右手は主旋律を、左手は拍がわかりやすいように、コードの和音を四分音符で演奏する。)		
5. 本時のまとめをする。また、次時の発表に向けての説明を聞き、見通しを立てる。	○「4.」での演奏や、練習中の生徒の様子について感想を述べるとともに、次の発表方法についても触れ、見通しを持たせる。		

(3) 評価及び指導（手立て）

A（十分満足できる）と判断される具体的な状況	・曲の構成を生かしながら、リズムを組み合わせて工夫をするとともに、旋律に合わせて強弱やストロークの速度など奏法についても自分なりに考えて工夫し、演奏している。
B（おおむね満足できる）状況を実現するための具体的な指導（手立て）	・どのような部分において生徒がつまづきを感じているか、観察や発言から確認するとともに、必要に応じて教員が生徒の作成したリズムを用いて模範演奏をしたり、コードを押さえることが難しい場合には、生徒の実態に合った速さに調節して練習を行うように促したりする。

Ⅷ 会員寄稿

感謝を込めて

徳島県立城東高等学校 井上 郁代

気が付けば退職まで残り1か月となっていました。これまで、ひのみね養護学校（現支援学校）からスタートし、小松島西高校（勝浦高校兼務）、名西高校、城東高校と5つの学校で勤務させていただき、いろいろな先生方にお世話になりました。自分も退職にあたっての〇〇を書くことになり、「光陰矢の如し」…改めて月日の経つ速さを感じております。

思い起こせば38年前、免許取りたての危なっかしい運転でひのみね養護学校を訪れた日、初めて足を踏み入れた養護学校ですが、思いのほか生徒も先生も明るいのに驚きました。教員も若い人が多かったので、一緒に遊びに行ったり旅行に行ったりする中で、たくさんのカップルが生まれました。

（私もその一人ですが…）ひのみねでは小学部に所属していたので、担任をしながら国語や算数を教え、音楽では『おかあさんといっしょ』や『みんなのうた』を参考にして歌を歌っていました。今もそうだと思いますが、特別支援学校は先生方の団結力が凄い！学部一体となって文化祭や音楽会など行事を盛り上げてくれました。素直でかわいい子どもたち、アツい先生方に感謝！

初任のひのみねで9年間過ごさせていただき、次に赴任したのが小松島西高校。ここで初めて高校生に教えることとなりました。当時は化粧バリバリの女子や頭ツンツンの男子もいて、最初はちょっとビビりましたが、話してみるとみんなかわいらしく、生徒から色々教わることもありました。ここで初めて部活動の指導をすることになったのですが、中学時代は吹奏楽部であったにも関わらず、恥ずかしながら吹奏楽についてほとんど知識がありませんでした。そこで、生徒に教えてもらったり、当時、徳島商業で指導をされていた新居誠司先生に生徒と一緒に教えてもらいに行ったりしてなんとかやっていきました。松西としては初めて吹奏楽コンクール（B部門）に出場したり定期演奏会を始めたりしましたが、現在でも続けてくださっていて嬉しいかぎりです。ここで2年間鳴門教育大学大学院に研修に行かせていただいたことも自分にとって大きな転機となりました。前任校のひのみね時代、先輩の先生が「大学院に行くんだったら40歳までに行った方がいい」とアドバイスをいただいたこともあり、決心しました。教える立場から教えられる立場に立つと、目からうろこが落ちたようにたくさんのことが見えてきたように思い、とても有意義で楽しい2年間でした。もし、大学院に行こうか迷われている方がいらっしゃったら。ぜひお勧めします。私がやりたいことを応援して下さった松西の先生方、今でも連絡してくれる吹奏楽部の生徒たち、そして鳴教大の先生方に感謝！

大学院を含め足掛け10年、松西でお世話になった後、名西高校に赴任しました。小松島の自宅からは遠かったものの、やはり音楽科がある学校。ベテランの先生方や講師で教えに来てくださる先生方から色々なことを学ばせていただきました。最初は音楽科の生徒13人を担任し、授業も部活動も…という濃〜い3年間。不登校の子や、やんちゃな子もいましたが、「手のかかる子ほどかわいい」の言葉通り、かわいい教え子と今でも時折子連れ同窓会をしています。さて、その子たちを連れて初めてのドイツ修学旅行に行くことになりました。現地では生徒はホームステイだったので、ドイツ語

も英語もできない子たちがどうなるんだろう？と心配していましたが、生徒は身振り手振りで驚くほど打ち解け、別れるときは涙、涙でした。また、秋のドイツはどこを見ても絵ハガキのような美しさ！人々もとても親切であたたかく接して下さり、素晴らしい体験ができました。

名西高校で7年間お世話になり、城東高校へ。私の夢の一つは、憧れの故川人昭夫先生のように、徳島市内の高校に行って（当時まだあった）文化センターでオーケストラ（or 吹奏楽）の指揮をすることでした。ここで自分の高校時代に戻りますが、私の母校市高のオケでは、毎年卒業式で顧問の川人先生から手書きの卒業証書をいただいていたので、そこには先生の愛が溢れており、私たちはみんなその卒業証書をもらえるまで頑張る！と部活に打ち込み、卒業式は涙、涙、で受け取っていました。当時の部員は1学年25～30人ぐらいいたので、その一人一人に思い出や激励の言葉を添えて卒業証書を書いてくださっていた川人先生の素晴らしさに今更ながら頭が下がります。

私も先生のマネをして名西時代から生徒に手作りの卒業証書を渡してきましたが、川人先生にはほど遠く…パソコンでチャチャと（時にはコピペしながら）作っていたからか…今の生徒たちはクールに受け取ってくれます。それでも、定演が終わるたびに、泣きながら「オケに入ってよかった～」と言ってくれることが自分にとって一番嬉しいひとときでした。高校時代の3年間（今は部活ができるのはほぼ2年間）、何かに打ち込みそれをやり遂げた瞬間というのは、やはりこれからの人生にとってかけがえのない時間だと思います。真面目で素直な生徒達と12年間過ごせたことは、私にとっても宝物のような時間でした。また、城東では、オケだけではなく合唱を指導することができたのも、とても幸せでした。生徒にいつも言っているのですが、「音楽の基本は“歌”」だと思います。合唱をしている時間は自分にとっても心が癒やされる時間でした。合唱とオケの両輪で部活動の指導をさせてもらえたこと、本当に感謝しています。

とりとめもなく長々と書いてしまいましたが、この38年間、無事務め終えることができたのは、色々教えてくださったり支えてくださったりした先生方や生徒のみなさんのおかげです。音楽学会は人数も少なく非常にアットホームな学会です。これからもみなさんで力を合わせて徳島の音楽教育を盛り立ててくださることを切に願っています。

本当に今までありがとうございました。

Ⅸ 令和5年度 徳島県高等学校教育研究会音楽学会会員名簿

会 長 向 井 佳 子 (名西高等学校)
副 会 長 北 川 昌 代 (脇町高等学校)
学会幹事 上 原 慎太郎 (名西高等学校)

城東高校

1 井 上 郁 代 教諭

富岡東高校

1 大 羽 恵 子 教諭

脇町高校

1 北 川 昌 代 教諭

城南高校

1 和 泉 康 洋 教諭

富岡西高校

1 常 陸 貴 生 教諭

池田高校

1 三木野 喜 子 講師

城北高校

1 石 川 宏 美 教諭

阿南光高校

1 葉 久 かおり 教諭

徳島視覚支援学校

1 仁 木 悦 子 教諭

城ノ内中等教育学校

1 坂 東 遥 教諭

海部高校

1 梅 本 香 織 教諭

板野支援学校

1 原 口 絵 里 教諭

徳島北高校

1 榊 一 二 三 教諭

鳴門高校

1 岩 崎 律 子 教諭

板野支援学校

1 長 町 美 希 教諭

徳島市立高校

1 岸 秀 典 教諭

板野高校

1 山 本 裕 子 教諭

国府支援学校

1 今 津 崇 晴 教諭
2 黒 木 小百合 教諭

城西高校

1 森 長 友 希 教諭

名西高校

1 森 本 奈央子 教諭
2 上 原 慎太郎 教諭
3 丸 岡 聖 子 教諭
4 新 居 誠 司 教諭

ひのみね支援学校

1 豊 田 尚 子 教諭
2 藤 本 壮 教諭

科学技術高校

1 東 川 容 子 教諭

みなと高等学園

1 吉 田 美 恵 教諭

徳島商業高校

1 梅 本 敏 行 教諭

川島高校

1 岸 直 美 教諭

阿南支援学校

1 濱 田 三貴子 教諭
2 細 井 京 子 教諭

小松島高校

1 山 根 幹 教諭

阿波高校

阿波西高校

1 松 浦 有 沙 講師
(橋 本 二千翔 教諭)
(兼務)

池田支援学校

1 山 田 麻依子 教諭
2 小 谷 直 也 教諭

小松島西高校

小松島西高校 勝浦校

1 松 丸 麻祐子 教諭